

# 北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第616号 平成25年9月26日

## ワースト校長名の公表（1）

先日、平成25年の全国学力調査の結果が公表されました。

北海道の状況は、昨年と比較して全国との差は縮まったとはいえ、依然として厳しい事変わり有りません。

さて、この全国学力調査の結果に静岡県の川勝知事さんが「ワースト100の校長名を公表する」と発言する等過激に反応し、物議を醸している事は、皆さんもご承知の事と思います。

事の発端は、今回の学力調査の結果、静岡県内の公立小学校の国語Aの成績が全国最下位だったというもので、川勝知事は「子どもに責任はないということを明確にするため」と校長名を公開する理由を説明しています。また、「結果を隠すのはおかしい。子どもを伸ばすことができない教師には退場を願いたい」と公表の必要性を強調すると共に、「（成績が）最低というのは教師の授業が最低ということ。教師は大人なので責任を持ってもらい、反省材料にしてほしい」とワースト100の校長名の公表に並々ならぬ意欲を示していました（9月10日付北海道新聞から）。

この川勝知事の意向に対して、三重県の鈴木知事は「思いは一定程度理解できる」と川勝知事の発言に理解を示すと共に、「過剰な競争が生まれてはいけないといわれるが、一定の情報提供はあってもいいかなと思う」と述べています（9月10日付北海道新聞から）。

学力調査の実施要領では市町村名や学校名を非公表としていますが、これに対して川勝知事は、「それならば校長名の公表なら文句はないだろう」といわんばかりです。

こうした川勝知事の姿勢に対して、文部科学省の幹部は、「校長名の公表は実施要領に違反している」と明言すると共に「校長を見せしめにするための行為としか思えない」と批判していました（9月10日付北海道新聞から）。また、静岡県の教育委員会も校長名の公表には慎重で、公表の取り止めを知事に求めています。

すると川勝知事は、一転して、全国平均を上回った小学校86校の校長名を50音順で県のホームページに掲載しました（9月21日付朝日新聞から）。

知事によれば「下位でも上位でも、どちらでもよかった。教員の責任の所在を明確にするために公表した」と述べています。

この一連の顛末について、皆さんはどのような感想をお持ちでしょうか。

校長名の公表については、

- ・校長名を公表しようとする意図は何処にあるのか
  - ・校長名を公表する事、つまり競争を煽る事で効果は上がるか
- という点について、良く考えて見る必要があります。

まず、校長名公表の意図は何処にあるのでしょうか。

川勝知事は、「教員の責任の所在を明確にするため」と述べています。しかし、校長名を公表したからといて、それで責任を明らかにしたといえるのでしょうか。

子ども達の学力については、学校の教育実践に負うところが極めて大きい事という迄ありません。従って、子ども達の学力が低いという状況に対しては、当然学校の責任は免れません。

今回の学力調査の結果についても、各学校においては、これ迄の教育実践に効果がなかったとすればその原因は何処にあるのかしっかりと検証すべきです。その過程で、教師の手抜きが明らかとなればその責任は問われるべきですが、仮に、一生懸命やっていたけれども成果が上がらなかったとすれば、その教師の指導力の向上を図らねばなりません。

また、校長や教頭が、子ども達の学力向上に明確なビジョンを示すことなく、教師に対するリーダーシップも発揮してこなかったとすれば、そうした校長や教頭に対する責任も明らかにしなければなりません。

しかし、校長の責任を問うとはいっても、「学力調査の結果で順位が低かったから」という理由でその責任を問うという考え方は、妥当といえるでしょうか。

例えば、今の校長は、今年の4月の人事異動で他の学校から赴任して来たのかも知れません。そうであれば、今回の学力調査の結果について責任を問うというのは明らかに酷というものでしょう。また、これ迄は非常に低い学力だったけれども、この1年学校挙げて学力向上に取り組んだ結果、全国のレベルには達しなかったけれども、昨年と比較すると随分と子ども達の学力は伸びているというケースも有り得ます。

そうした現状を考慮する事無しに、順位だけで責任を追及するという姿勢には、疑問を感じます。(塾頭：吉田 洋一)